

「浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学法学部 2年 三村一馬

①学習成果

留学前は一般教養の授業が中国語学習の中心だったので文法や読解を中心とした学習を行っていた。留学中に他国の留学生の中国語能力が特に会話・聞き取りにおいて自分より勝っていることを実感した。同時に、漢字・文法に対する理解や書き取りについては自分たちも負けていないと感じた。この経験から、帰国後は文法理解や読解だけでなくディクテーションや発話を中心とした学習を行いたいと思うようになった。

また、留学前は中国語習得より異文化理解の方が興味が大きかった。留学中に、より中国語が聞ければ、また話せれば、さらに中国に対する理解が深まり楽しく留学生生活を過ごせるのにと何度も思った。この経験が帰国後の中国語学習のモチベーションの源になった。

②海外での経験

滞在中の経験のうち、交通機関について感じたことについて語る。

複数種の交通機関で中国の方が日本よりセキュリティは厳重である。例えば高速鉄道や地下鉄は乗車前に持ち物を検査される。バス、高速鉄道、地下鉄のいずれにも防犯カメラが完備されている。

特に、高速鉄道では駅構内に入る前に本人確認が存在した。また、高速鉄道の改札は日本のようにいつでも入場可能というわけではなく列車発車前の一定時間（なお発車直前は入場不可）しか開いていない。これには特に驚いた。これによってホーム上に人がたむろする状況や駆け込み乗車を防ぐことができる。

③プログラム内容

プログラムは中国語の授業、文化交流、自由行動からなる。

中国語の授業は1コマ90分で1日に約2コマあった。他国の留学生とともに受講する。クラスのレベルにもよるが、教員は基本的に中国語で授業を行い英語で補足していた。

文化交流は中国語の授業後、午後に行われる。ボランティア学生の引率と浙江大学のバスによる送迎がつく。内容は以下の通り。商店街散策、西湖散策、観劇、火鍋賞味、化粧品メーカー見学、浙江大学教員の特別授業、中国シルク博物館・中国茶葉博物館、G20 ライトアップ鑑賞、プレゼン交流会。

自由行動は放課後の自由行動と休日の自由行動の2種類があった。放課後の自由行動では中国語のクラスで仲良くなった他国の学生と交流するなどした人も多いようだ。休日の自由行動では杭州を出て上海や蘇州へ足を延ばすグループが多かった。

④進路への影響

将来の選択肢に中国で働くという選択肢が増えた。